

活性化センターからのお知らせ

石灰（カルシウム）について

土壌中の石灰は、ケイ素、アルミニウム、鉄のつぎに多く存在しています。

土壌の風化が進むと石灰は、次第に減少します。酸性土壌には少ない。また、窒素肥料の大量施用や酸性雨によっても、酸性土壌化が進み石灰は溶脱され易くなります。

根の伸長停止、上位葉への障害、トマトの尻腐れ、ハクサイ・セルリー、キャベツの芯腐れ症状は石灰欠乏が原因です。

土壌中に十分な石灰が存在していても欠乏が発生する原因は、作物が石灰を十分に吸収できないためです。一度吸収された葉に存在する石灰は、細胞壁を構成するペクチンと結合して存在しているため、新しい上位葉には、ほとんど再転流しないと言われています。そのため葉のふちや先端が緑色から黒くなったり、褐色に枯れたりしますが、その仕組みは不明な点が多いです。



（写真－１ キャベツの黒変）

土壌中の石灰（交換性陽イオン）はプラスの電気を帯びて、マイナス電気の粘土と結合しています。その他に土壌中の水に溶けている石灰イオンもあります。

石灰が多いとpHも上昇します。交換性石灰は100～500mg/100g含まれています。最適な石灰量はCEC（陽イオン交換容量）によって定められています。CECが大きな、粘土含量の多い、黒色の腐植に富む土壌はたくさんの石灰が必要になります。

石灰質肥料には、硫酸カルシウム（商品名の一例で「畑のカルシウム」）は酸性矯正せずに石灰を補給します。生石灰、消石灰、炭酸カルシウム、苦土石灰は、石灰の補給と酸性の中和力を表すアルカリ分で保証されています。

和寒町特産の「越冬キャベツ」も石灰欠乏が発生します。結球内部の葉縁が黒変するので発見できます。石灰欠乏は通称「枯れ葉」カレハと呼ばれています。（写真－１）多くはキャベツの内部に発生するので外側からはわかりません。キャベツをカットすることで発見されます。そのため、出荷して消費者に届くまで発見できませんので、注意が必要です。カレハ症状は越冬キャベツの主要品種の「冬駒」に発生しやすく、「湖月」や「大学寒玉」には、ほとんど発生しません。このように品種間差があります。

この対策として、炭酸カルシウムを施用して酸性を矯正し、pH 6.0～6.5に保つことです。例として基肥施用時に水溶性の「畑のカルシウム」を100～200kg/10a施用することも有効です。

お問合せは農業活性化センター（TEL32-2010）まで

こんにちは 農業委員会です！

農業委員会総会の会議結果は下記のとおりです

●第2回 農業委員会総会

日時・場所 2月25日（金）午後3時30分 役場第2会議室

議 件	1. 農地所有適格法人報告	16件	2. 農用地の賃貸借の解除	1件
	3. 農用地の売買	1件	4. 農用地の賃貸借	3件
	5. 農用地の使用貸借	1件		

お問合せは農業委員会（TEL32-2435）まで